

# 2023 ズバリ! 的中 世界史

## 同志社大学

### 第二次世界大戦直前のドイツの侵略に関する空欄補充が的中

#### 入試問題

2月6日実施 学部個別日程  
〔Ⅲ〕設問1、設問2

#### 河合塾

大学受験科 完成シリーズ  
世界史 演習  
第21講 2【1】、【2】

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、設問1～8に答えなさい。(50点)

世界恐慌による経済・社会の混乱に対応するために、アメリカは あ 政策をとり、イギリスと あ は植民地帝国をブロック経済圏で囲い込むことで、経済的な一國主義が進んだ。国際的な経済状況が大きく変化するなか、あ やドイツでも社会的不安・対立が拡大した。

1935年、あ はエチオピアに侵略した。い は加盟国に侵略した あ に対して制裁を発動したが、イギリスと あ はこれに消極的で、経済制裁は十分な効果を発揮しなかった。その結果、翌年に あ はエチオピアを併合した。間もなく あ は え 内戦に介入し、反乱軍に武器援助を行い、その翌年には い を脱退することになった。この過程で あ はドイツとの連携を強め、さらに か を加え、三国枢軸を形成した。

い の管理下にあった え 地方も住民投票によってドイツに編入された。1938年、ドイツは か を併合した。ヨーロッパでは民族自決権が広く認められていたこともあり、ドイツ民族統合を理由とする併合への抗議は弱かった。同年9月、え に対して、ドイツ人居住者が多い か 地方の割譲を要求した。イギリスと あ は戦争を阻止するために、え にこの地方の割譲を認めるよう圧力をかけた。当事国である え の代表が不在の か 会議において、ドイツがさらなる領土要求は行わないという約束で、か 地方の割譲が認められることになった。しかし、ヒトラーはこの約束を破り、翌年3月に か を併合した。さらに、い にもダンツィヒの返還、東プロイセンへの陸上交通路を通過する権利を要求した。ドイツに制裁されて あ も4月に か を併合した。

以上のようにイギリスと あ は、ドイツの要求を認める姿勢 え 政策をとった。このことをめぐり、第二次世界大戦開戦の責任の所在について議論がなされている。え 政策の背景には、ドイツをソ連に立ち向かわせ、双方を弱体化させる思惑があったが、ファシズム諸国の侵略を逆認し、その後の暴走を助長したとの批判がなされてきた。他方でイギリスについては、軍備の不

第21講

#### 2 ヴェルサイユ体制の崩壊とドイツの優越

##### 【1】 ヴェルサイユ体制の崩壊と全体主義国家の提議

ヒトラーの指導下に国力を蓄えたドイツは、ヴェルサイユ体制の打破に乗り出し、軍備平等権が認められないことを理由に、1933年には日本に続いて国際連盟を脱退し、1935年には住民投票により 1 地方を編入した。同年ドイツが徴兵制の復活と 2 を宣言すると、英・仏・伊3国は抗議した。しかし、まもなくイギリスはドイツと 3 を結び、イギリスの35%の海軍力保有をドイツに認め、事実上 2 を追認した。ドイツの 2 宣言に対抗して、仏ソ相互援助条約が結ばれると、ドイツはこれを理由に1936年に 4 条約を破棄して非武装地帯の 5 に軍を進駐させ、ヴェルサイユ体制の破綻を遂げた。

一方、経済基盤の弱体化イタリアも、世界恐慌の影響が波及して生産が停止し、失業者が増え国民経済が危機に陥ったので、6 党のムッソリーニ政権は対外侵略により難局を打開しようとした。そこで1935年にアフリカの 7 帝国に侵襲し、翌1936年これを征服した。このとき国際連盟はイタリアに対する経済制裁を決議して実行したが、不徹底であり効果がなく、国際連盟の威信はおおいに傷つけられた。

国際的緊張が高まると、1935年にモスクワで開かれた 8 第7回大会は、それまでの社会民主主義政党を敵視する政策を転換し、人民戦線(反ファシズム統一戦線)の結成を提唱した。1936年にはフランスやスペインで人民戦線による内閣や政府が成立した。このうち、スペインでは軍人の 9 が人民戦線政府に対してスペイン領モロッコで反乱を起こした。スペイン内戦は全土に広がり、ドイツとイタリアは反乱軍を支援した。人民戦線にはソ連や各国の知識人・労働者が国際義勇軍として参加したため、内戦は人民戦線とファシズムの国際的な対決の場となった。しかし、英仏の不干渉政策に加え、人民戦線内部の対立もあって内戦は1939年に 9 側がマドリードを陥落させて勝利した。

スペイン内戦は全体主義国家の提議を強め、1936年10月にはドイツとイタリアによる 10 軍備が結成され、ついには11月に日独 11 が結ばれ、1937年にはイタリアも参加して三国 11 が成立した。イタリアは1937年、日本・ドイツにならって国際連盟を脱退した。こうして、ヴェルサイユ・フシントン両体制に挑戦するドイツ・イタリア・日本は、三国枢軸を形成するにいたった。

足、第一次世界大戦を経験した国民の強い反戦志向、イギリス帝国内にあったアイルランドの離脱やインドの民族運動など、当時の状況から擁護する意見もある。

イギリスと( a )は、( h ) 会談での合意を破ったナチス=ドイツを抑えるために、ソ連と同盟交渉に入った。しかし、西欧諸国の態度に不信を抱いていたソ連はドイツとの提携に転じ、1939年8月に( お ) 条約を結んだ。この条約の秘密議定書には、ソ連とドイツによる( i ) 分割などが約束されていた。これに力を得たドイツは、同年9月( i ) 侵攻を開始した。

1941年3月、アメリカ大統領ローズヴェルトは、イギリスに対して( か ) 法を成立させて、支援に踏み切った。同年6月、ドイツは( お ) 条約を破ってソ連に侵攻し独ソ戦が始まった。同年8月、大戦の影響を受けてローズヴェルトとチャーチルが共同宣言を発表して両国の戦時協力を強化した。同年10月、アメリカはソ連に対しても( か ) 法を適用して支援を開始した。

設問1 文中の( あ ) - ( か ) に入る最も適切な語句を解答欄Ⅱ-Aに記入しなさい。

設問2 文中の( a ) ~ ( j ) に入る最も適切な語句を次の語群から選び、番号を解答欄Ⅱ-Bに記入しなさい。なお、同じ記号には同じ語句が入る。

- |             |              |               |
|-------------|--------------|---------------|
| 1. アイスランド   | 2. アルバニア     | 3. アルメニア      |
| 4. イエメン     | 5. イスタンブル    | 6. イタリア       |
| 7. ウクライナ    | 8. オーストリア    | 9. オランダ       |
| 10. カイロ     | 11. キリシヤ     | 12. ザール       |
| 13. シュレスヴィヒ | 14. スイス      | 15. スウェーデン    |
| 16. スペイン    | 17. ダブリン     | 18. チェコスロヴァキア |
| 19. 中国      | 20. デンマーク    | 21. トルコ       |
| 22. 日本      | 23. ノルウェー    | 24. パリ        |
| 25. ハンガリー   | 26. バングラデシュ  | 27. フィンランド    |
| 28. フランス    | 29. ブルガリア    | 30. ベルギー      |
| 31. ベルリン    | 32. ポーランド    | 33. ボツダム      |
| 34. ポルトガル   | 35. ミュンヘン    | 36. モザンビーク    |
| 37. ヤルタ     | 38. ユーゴスラヴィア | 39. ラトヴィア     |
| 40. リトアニア   | 41. ルーマニア    | 42. ルクセンブルク   |
| 43. ロンドン    | 44. ワシントン    |               |

## 【2】第二次世界大戦直前のドイツの侵略

ドイツ(ヒトラー内閣)はドイツ民族統合を名目として1938年に( 1 )を併合し、さらに同年(チェコスロヴァキア)に対して、同国内で多くのドイツ人が居住している( 2 )地方の併合を要求した。イギリスの( 3 )首相は譲歩と話し合いによって解決をはかる( 4 )政策をとったため、イギリス・フランス・ドイツ・イタリア4国首脳による( 5 )会談が開かれた。会談ではチェコスロヴァキア代表を参加させないまま( 2 )地方のドイツへの併合を認めた。

しかし、ドイツはこれに満足せず、1939年にはチェコスロヴァキアを解体してその西半分(ボヘミア)・モラヴィア(モラヴィア)を併合し、東半分のスロヴァキアを保護国とした。次いで(ポーランド)に対して、( 6 )(現在のグダニスク)の返還とポーランド領土での陸上交通路を要求したので、英仏両国は( 4 )政策の限界を認め、来たるべきドイツとの戦いを覚悟して、ポーランドとギリシアの安全保障を約束して軍備の充実を急いだ。英仏両国はソ連とも軍事同盟の交渉に入ったが、( 5 )協定の締結に対して、英仏の態度に不信感を抱いたソ連のスターリンは、ドイツとの提携に踏み切り、1939年8月23日に( 7 )条約を結んだ。こうしてドイツ軍は9月1日にポーランドに侵攻し、英仏は同月3日ドイツに宣戦して、ここに第二次世界大戦がはじまった。

